

永原学園地域子育て支援センター

さんこう・ぽぽらだより

令和2年10月発行・第162号

認定こども園西九州大学附属 三光保育園

TEL:0952-31-6877

10月の生活目標

・静かに話を聞きましょう。



9月の支援活動では、最後の水遊びをしました。
雨の日は、室内での遊びを楽しみました♪



「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか？
日時：10/30(金)・11/9(月)

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。
※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。
事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

さんこう・ぽぽら開放の時間帯について

【開園日】○月～金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】09:00～12:30

- ・園行事の為、ご利用できない場合があります。
- ・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

○12:30～13:30

屋休みの為閉園

○13:30～16:00

この時間帯のご利用の場合は、電話での申し込みをお願いいたします。

「秋の楽しみ♡」

9月は台風が2つも来て、被害が出たり対策に追われたりと大変でしたね。皆様の周辺は大丈夫でしたか？

4連休は、久しぶりに高速道路や遊園地が混雑して、コロナ感染が収束したかのように感じました。まだまだ気のゆるみがないよう予防には気を配りましょう。

さて、秋も深まり子ども達の遊びにも変化が出てきました。登園すると園庭に出てドングリや木の実を拾うのを楽しみにしている子ども、プランターに植えた花の変化に気づいて色水遊びに発展させようとする子ども、ホッピングやフラフープの上達が楽しくてたまらない子ども、新しく仲間入りした金チャボ3羽とウサギ、うこっけいに会いに行く等々、友達と一緒にとても楽しそうです。運動会を終えると、遠足や芋ほりと園外の秋の自然に触れる機会も予定されています。木の葉や木の実探すと、それを使った小物づくり、芋などの収穫の楽しみ・・・！子ども達の笑顔が目に見えます。

秋の自然は子ども達の想像力や探究心を高めてくれます。休日には、近くの森や公園に出かけて、秋の自然に触れて遊びましょう。
(三光保育園園長)

10月・11月の「子育て支援事業」のお知らせ

- ・10月13日(火)・・・赤ちゃんの日(1歳未満)
- ・10月14日(水)・・・1歳児の日
- ・10月27日(火)・・・フリーディ
- ・10月28日(水)・・・フリーディ
- ・11月11日(水)・・・赤ちゃんの日(1歳未満)
- ・11月13日(金)・・・1歳児の日
- ・11月16日(月)・・・2歳・3歳の日
- ・11月17日(火)・・・フリーディ
- ・11月18日(水)・・・フリーディ

※時間：10時～11時

※雨天時は、中止です。

※開催場所：三光幼稚園・保育園の運動場(子育て支援センター)

※事前の電話での申し込みが必要です。(10/1～9時半～17時)

※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。1歳と2・3歳の日には、参加できます。

★新型コロナウイルス感染症の状況により、計画の変更がある場合があります。出かける前に必ずホームページで確認してください。また、感染症対策にもご協力ください。

○10月は、「いもほり体験」があります。

日時：10月19日(月)10:00～12:00 (先着12組)

10月22日(木)10:00～12:00 (先着12組)

※事前の申し込みが必要です。(2・3歳児が対象です)

※詳しくは、予約時のお電話でお知らせします。

(10/1 9:30から電話予約開始です。先着順)

「あらためて感染症と予防接種について」

西九州大学看護学部看護学科 講師 平原直子

感染症や予防接種といえば、新型コロナウイルス（covid-19）のワクチン開発が急がれていますが、私たちのまわりには昔から多くの病原体が存在し、感染症を引き起こしてきました。なかでも天然痘は感染力がとても強く、死に至る疫病として紀元前から恐れられてきましたが、1798年イギリスの医師エドワード・ジェンナーにより天然痘ワクチン（種痘）が開発されました。日本でも第10代鍋島藩主鍋島直正によって持ち込まれ普及し1980年WHOによって撲滅宣言が出されました。昔のこととはいえ、ワクチンの開発や撲滅までの年月の長さを考えると、私たちと感染症の闘いはまだまだ続きそうです。

私は日ごろ、看護学生の感染症予防に携わっており、予防接種や感染予防策の指導をおこなっています。予防接種の目的は自分がかからないため、あるいはかかったときの症状を軽くするため、また免疫力が低下している患者さんや妊婦さん、高齢者の方々を守るため、ということがあります。いちど感染が拡大した病原体を根絶させることは容易ではないですが、有効なワクチンの開発・予防接種を受けることで感染拡大を防ぐことは可能です。

感染症の発生が広がる条件には、①原因となる病原体が持ち込まれる、②病原体が身体に侵入する経路がある、③感染症にかかりやすい、免疫力が低下した人がいる、という三大要因があるといわれています。

予防接種を受けた人は免疫がつき、病原体が身体に入ってきたときにそれを跳ね返すことができます。また、集団のなかに免疫を持つ人が多ければ、たとえ病原体が入りこんでも、感染が広がるサイクルが途中で絶たれるため、大流行にならずにすみます。

多くの感染症は手洗いやマスクの着用である程度防ぐことはできますが、赤ちゃんや小さい子どものマスクの着用は、かえって熱中症や窒息などの弊害をまねくといわれていますし、手洗いの徹底にも限界があります。

現在日本では、ありがたいことに無料で受けられる定期予防接種があります。

乳児期の定期予防接種のスケジュールはかなり過密で、ワクチンの種類により接種の間隔も違うため、スケジュール調整がとても大変ですね。また、日本脳炎など数年後に追加接種があるものだと忘れてしまいがちです。子どもの誕生日ごとに母子手帳を見なおしたり、小児科への受診のついでに予防接種の相談をするなど、接種忘れがないようにしたいですね。

